

介護の日

あなた自身
あなたの家族
あなたの地域に
やさしい介護を



高齢化などにより介護が必要な人たち（要介護者）が増加している一方で、介護にまつわる課題は多様化しています。こうした中、多くの人たちに介護を身近なものとして感じていただくとともに、それぞれの立場で介護を考え、かわっていただくことが必要となっています。

昨年7月に、国では、介護についての理解と認識を深めてもらうと、「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」として、11月11日を「**介護の日**」と定めました。

この機会に皆さんも、高齢者や障がいのある人などに対する介護について考えてみましょう。

実際に奥さんの介護をしているKさんの体験談

息子の海外赴任で孫や息子夫婦と離れ、妻との二人暮らしになり、間もなく妻は認知症になりました。妻は、物忘れがひどく、わたしが30秒ほど見えないとすぐに「お父さん」と呼びます。家では、1日40回もトイレに行き、わたしは外に出掛けられません。

介護を始めたころは、分かっている話がかみ合わない妻に、近所に聞こえるほど大きな声で怒っていたこともあり。そのころのわたしは、妻のことを人に話すということに引け目を感じて話すことができず、とても怖い顔をしていたそうです。

しかし、ありのままを人に話せるようになってからは、とても気が楽になりました。ため込むことはつらくて苦しむことになるので、やはり、知人や地域の人に知ってもらうことが大切だと思っています。

今は、デイサービスやショートステイなどの介護保険サービスを利用しています。ショートステイを利用した日は、わたし自身がゆっくりと寝ることができ、デイサービスを利用した日は、喫茶店などに行ってお茶をします。

妻の世話を始めてから、友人と会うことができなくなり、とても寂しいです。妻の介護で一番つらいと思うことは、排泄の世話です。

しかし、たまに妻は、食事のときに、「お父さん、おいしい」とか「わたしのために、ありがとう」と言ってくれます。やはり妻は、家がいいのかなあと考えて毎日を過ごしています。

わたしはこれからも元気でいる限り、昔からの趣味であるイチイの木を使った2～3cm大の「打出の小づち」を彫りながら、妻の横で介護をしていきます。

高齢者が安心して暮らせるまちを目指して

高齢化の進展は美濃加茂市も例外ではなく、当市の65歳以上の高齢者は、平成21年3月末現在10,095人で高齢化率18・2%と高水準を占めており、平成26年には19・8%と5人に1人が高齢者といえるほど、高齢化は進むと見込んでいます。

また、当市の要介護認定者は、平成12年には746人（対高齢者人口9・3%）でしたが、平成20年には1,346人（同13・5%）と、8年間

「住み慣れた家で暮らしたい」その気持ちは誰でも同じです

訪問介護員（ホームヘルパー）

松下 せつ子 さん



一人暮らしで調理や服薬ができなくなってきたYさんに、訪問介護を始めて7年。最初は受け入れてもらえませんでした。いつからか、帰り際に手を振ってくれるようになりました。その笑顔がヘルパーを勇気づけてくれます。

高齢化が進み家庭環境も複雑になっている今、ヘルパーの支援もより困難なケースが増えています。しかし、「住み慣れた家で暮らしたい」という思いは変わりません。その思いに答えたいと、ヘルパーは今日もがんばっています。